



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race 2016 AUTOBACS SUPER GT Round7
BRIRAM SUPER GT RACE
Date 2016.10.08-09
Race Track BURIRAM UNITED INTERNATIONAL CIRCUIT
Team Gulf Racing with PACIFIC
Car GULF NAC PORSCHE 911



決勝重視のタイヤチョイスで予選 18 位から上位を狙う。

2016.10.08 QUALIFYING (公式予選 18 位)

WEATHER : DRY

SUPER GT シリーズ第 7 戦が、10 月 8~9 日にタイ、ブリラムのチャーン・インターナショナル・サーキットにおいて 300km レースとして開催。Gulf Racing with PACIFIC「GULF NAC PORSCHE 911」(阪口良平/吉田広樹)は、ハンディウエイトなしで今季最高位を狙い参戦した。決勝は 18 番グリッドから阪口がスタートして、ピット作業のタイミングで一時は 5 位まで順位を上げる走りを見せた。中盤以降は吉田がドライブを担当し最後まで粘りの走りを見せて 17 位でゴール。残念ながら今季最高位はならなかったが、4 戦連続の完走を果たしチームポイントを加算。ドライバー、ピットスタッフに大きなミスもなく収穫のあるレースとなったが、反省点もあったレースとなった。

タイ、バンコクから北東へ 400km。ブリラムはサッカーチーム、ブリラム・ユナイテッドの本拠スタジアム脇にサーキットが造成された発展著しい町。ここでの GT レース開催は今回で 3 年連続となる。コースは高低差が 10m と比較的フラットで、コース幅も広く高速コーナーもありドライバーには好評なレイアウト。また路面のグリップも日本のサーキットとは異なり攻め甲斐があるという。チームはタイラウンド初参戦、阪口は 6 月のアジアン・ル・マンシリーズで走っており今回が 2 回目、吉田は昨年セーフティカーをドライブしているもののレースは初出走となった。今回はハンディウエイトの搭載が MAX 値であり、次のレースは半減で最終戦は 0 となる。したがって今季最も結果を残せるラウンドと期待された。

予選日は未明に雨が降ったものの朝の公式練習までにすっかり乾いた。気温 28℃、路面温度 31℃と低めのスタートとなったが、徐々に気温、湿度とも上昇していった。このセッションを主に走り込んだ阪口は 1 分 34 秒 738 で 17 番手。1 分 34 秒台後半には 7 台がひしめいており厳しいポジションにいる。午後の予選 Q1 は気温 30℃、路面温度 38℃と路温が上がった。タイヤは決勝レースでの無交換を考慮して、フロントはハード、リアはソフトを選択した。しかし阪口は 1 分 34 秒 042 へ大きくタイムアップするも 18 番手にとどまり、14 位までが出走できる Q2 への進出はならなかった。



SPONSORS



PARTNERS





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



粘りの走りで 17 位、4 戦連続での完走！

2016.10.09 RACE (決勝 17 位)

WEATHER : DRY

決勝レースは気温 33℃、路面温度 44℃と路温がレースウィークで最も上昇。タイヤには厳しくなるため、タイヤ無交換作戦が成立するが難しい状況になった。スタートドライバーはいつものように阪口が担当。序盤の混乱も巧みにかわし順位を守って周回を重ねた。タイヤの磨耗などで早めのピット作業を進めるチームが出てくると、コースにとどまっていた阪口は 1 分 36 秒台と安定したラップタイムで徐々に順位を上げていった。折り返し点に近い 30 周目には 5 位まで順位を上げた阪口は 36 周を終えてピットイン。ここでタイヤをすべて交換し吉田に交代、燃料補給を済ませてコースへ復帰した。



ピット作業で予定より多めの時間を要したこともあり、17 位へ順位を下げた吉田だったが、前後には同一周回でバトルする車両もおらず事実上の単独走行となった。吉田は終盤の 49 周目にこのレースでのベストタイム 1 分 35 秒 269 をマークし、結果的に予選より順位をひとつ上げた 17 位でゴール。4 戦連続での完走を果たすことができた。またクラストップと 1 周差でゴールしたことにより、SUGO 以来のチームポイント 3 点を加算し、チームランキングは 22 位となった。レースは最終ラウンド、ツインリンクもてぎでの 2 レースを残すのみ。今季最高位は SUGO と鈴鹿での 13 位。悲願の初入賞 & ドライバーズポイント獲得を目指して最後のラウンドに臨む。

■国江仙嗣監督

「悔しい結果で申し訳ありません。今回はタイヤ選択を間違えてしまったのかもしれませんが。両ドライバーとも良く頑張ってくれましたし、途中での作戦変更にもかかわらずメカニックは良く対応してくれましたし頑張ってくれました。チーム全体の力は毎戦レベルアップしているのを感じることができました。最終ラウンドに向けてはまだいろいろ勉強しないといけないことありますが、最後の最後まで最善を尽くせるよう精一杯努力するつもりです。ぜひ応援をよろしくお願いいたします」

■阪口良平選手

「スタート直後から混戦でポジション取りに苦労しました。1 コーナーで押し出され単独走行になりましたが、その後はベースを取り戻すことができました。途中からブレーキが厳しくなりリヤの挙動も不安定になったので予定より早めにピットインしたかったのですが無線の混線もありピットインが遅れました。勝負やバトルができませんでしたが、完走して分かったこともあり収穫がなかったわけではありません。最終戦は『終わりよければすべてよし』というようなレースにしたいですね」

■吉田広樹選手

「朝のフリー走行でのベースは悪くなく、もう少し上位に行けるかなと思っていましたが残念な結果になってしまいました。タイヤは予定を変えて 4 本とも交換したのですが、中盤からいい感じで走れました。ただ終盤はアンダーステアが強いように、ブレーキもきつく前を追うことができませんでした。最後まで諦めずポイントを取るという覚悟で最終ラウンドに臨みます」

 吉田 広樹



S P O N S O R S



P A R T N E R S

